

保存版

台東区

神田川水害ハザードマップ

～神田川が氾濫した場合～

【浸水想定区域・家屋倒壊等想定区域(河岸侵食)】

神田川水害ハザードマップ(浸水想定区域)について

この地図は、東京都が作成した「荒川水系神田川、善福寺川、妙正寺川洪水浸水想定区域図」(平成30年3月)を基に、大雨によって神田川が氾濫した場合の浸水想定区域と浸水深を示すとともに、各地域の避難場所を明示し、区民のみならずの避難に役立てるために作成したものです。

浸水被害が予想される区域及びその程度は、想定しうる最大規模の降雨(総雨量690mm・時間最大雨量153mm)を基にシミュレーションを行っています。雨の降り方や土地の形態等により異なることもあります。したがって、大雨が降ると、常にこの地図のような浸水被害が発生するというものではありません。

避難を促す場合、区から避難指示等の避難情報が発令されますので、各種気象情報や避難情報には十分にご注意ください。

あなたがとるべき避難行動は？

あなたが住んでいる場所は、**浸水が想定**されていますか？

はい

自宅は2階以上ですか？

いいえ

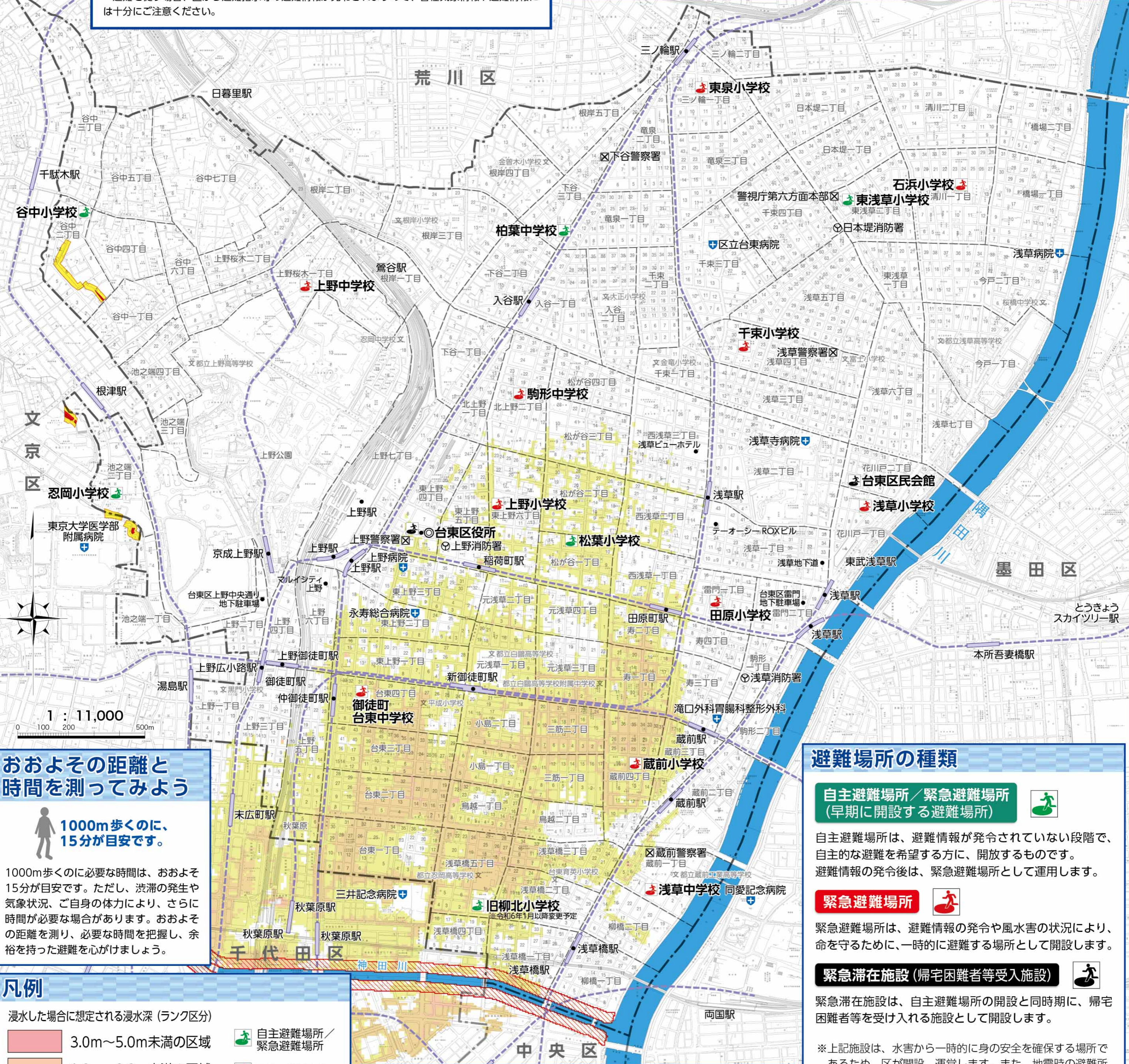
はい

避難の必要がありません。荒川氾濫、内水氾濫、高潮、土砂災害に注意してください。ただし、被害想定がなくても、周りより低い地形等の場合、気象庁や区からの情報を確認し、必要に応じて避難してください。

避難情報が発令された場合、災害の危険があるので、**緊急避難場所**へ避難してください。

避難情報が発令された場合でも**在宅避難(2階以上への避難)**をしてください。引き続き**荒川氾濫**にも警戒してください。

※自宅が家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)の場合は、上記に関わらず、緊急避難場所へ避難してください。



おおよその距離と時間を測ってみよう

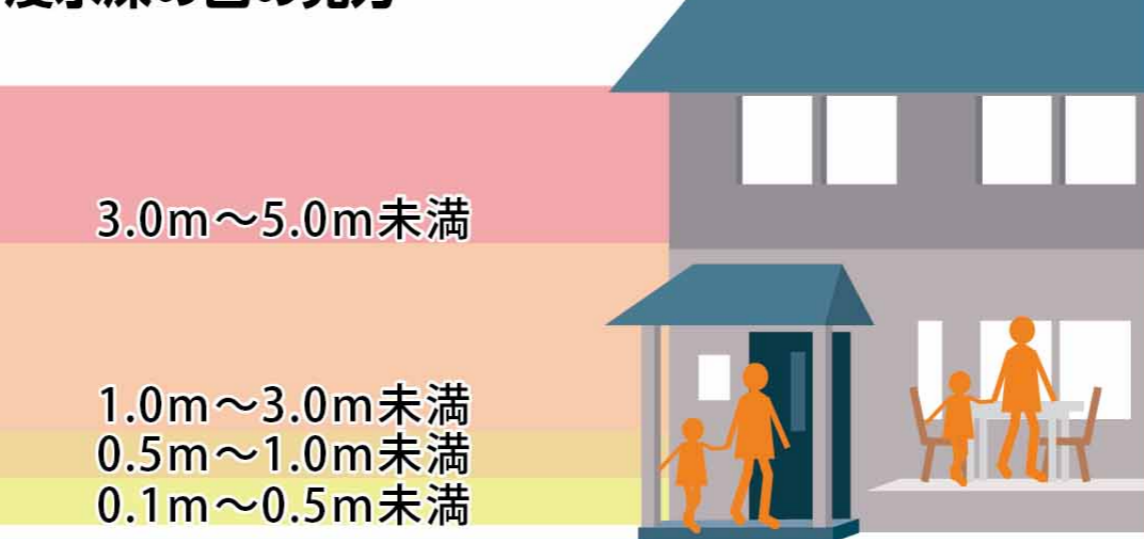
1000m歩くのに、15分が目安です。

1000m歩くのに必要な時間は、おおよそ15分が目安です。ただし、渋滞の発生や気象状況、ご自身の体力により、さらに時間が必要な場合があります。おおよその距離を測り、必要な時間を把握し、余裕を持った避難を心がけましょう。

凡例

- 浸水した場合に想定される浸水深(ランク区分)
 - 3.0m～5.0m未満の区域
 - 1.0m～3.0m未満の区域
 - 0.5m～1.0m未満の区域
 - 0.1m～0.5m未満の区域
- ※家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)
- 自主避難場所/緊急避難場所
- 緊急避難場所
- 緊急滞在施設(帰宅困難者等受入施設)
- 区役所
- 消防署
- 警察署
- 救急病院
- 地下街等施設
- 土砂災害警戒区域
- 土砂災害特別警戒区域
- 区界
- 町・丁目界
- 河川
- 地下鉄および地下式鉄道

想定浸水深の目安 浸水深の色の見方



避難場所の種類

- 自主避難場所/緊急避難場所** (早期に開設する避難場所)

自主避難場所は、避難情報が発令されていない段階で、自主的な避難を希望する方に、開放するものです。避難情報の発令後は、緊急避難場所として運用します。
- 緊急避難場所**

緊急避難場所は、避難情報の発令や風水害の状況により、命を守るために、一時的に避難する場所として開設します。
- 緊急滞在施設(帰宅困難者等受入施設)**

緊急滞在施設は、自主避難場所の開設と同時期に、帰宅困難者等を受け入れる施設として開設します。

※上記施設は、水害から一時的に身の安全を確保する場所であるため、区が開設、運営します。また、地震時の避難所とは異なり、生活する場所ではないため、水や食料は各自で持参してください。

在宅避難のすすめ

～避難とは、難を避けること～
神田川が氾濫した場合は、浸水が継続する時間が短いため、自宅の2階以上へ避難(在宅避難)することで、十分に難を避けられます。また、区でも避難場所での感染対策は進めていますが、避難場所への避難は、感染リスクを伴います。「在宅避難」をすることで、災害と同時に感染症からも身を守ることができます。

「この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都総計2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号)3都市基本図第70号」